

令和8年度 坂本小学校 学校経営構想

学校の教育目標

かがやけ 坂本の子

私たちが目指す児童像

- ・かしこく 主体的に学び続ける子
- ・やさしく 思いやりのある子
- ・たくましく 自分で考え、健康で安全な生活ができる子

児童の実態

- ・明るく素直で、決まりやルールを守って生活できる。
- ・「挨拶、掃除、聞く・話す」の3つの宝を意識するとともに、地域の方にも感謝する児童が育ってきている。
- ・自分で考えて行動したり、自分に自信を持って行動したりすることに弱さが見られる。
- ・進んで学習に取り組む姿勢と学力の底上げが課題。

職員の姿、指導姿勢

- ・やらなければならないことに対して、みんなで協力して行うことができる。
- ・児童や保護者、外部機関と丁寧につながり、組織的な教育相談や就学指導の体制がある。
- ・丁寧な指導はできるが、温かさと厳しさを導くと委ねるのバランスが課題。

基本姿勢と施策

教師に求める基本姿勢

- 1 基礎・基本の確実な定着を図る丁寧な指導と教師の授業改善で、「学ぶ意欲」を育てる。
- 2 学級、学年の仲間づくりを日常生活の基盤として行い、「思いやりの心」を育てる。
- 3 児童が行う価値ある取り組みを精一杯支援し、「自分で考えたり、正しく判断したりする力」を培う。

坂本小教育を充実させる9のプラン

基礎・基本の確実な定着を図るための指導と授業改善

- (1) 職員体制によるチームティーチングと個に応じた学習状況の見極めを大切に、きめ細かな指導
- (2) 一部教科担任制による専門性を高める指導と「伝え合い・振り返り」で進める主体的な学びの指導
- (3) 積極的な授業改善
 - ・児童が考えているか…主体的に学び続ける子
 - ・ゴールを明確に…付けたい力
 - ・選択、決定、じっくり考える場面の設定…自己決定と振り返り

指導のポイント
「3つの明確」

- ・ゴール
- ・やること
- ・途中経過

かがやきキラリの活動を軸に、思いやりの心を育てる指導

- (4) 子どものよさに気づかせ、よさを伸ばし、可能性を引き出す「かがやきキラリ」の推進
- (5) 日常を大切に、呼びかけとそれに応える仲間関係のある学級・学年づくり
- (6) すべての教育活動を通して、誰一人取り残さない学校づくり…不登校対策

児童が行う「価値ある取り組み」に対する積極的な支援と評価

- (7) 日本一の挨拶や3つの宝を軸に、アイデアと参加意欲が高まる活動による魅力ある学校づくりの推進
- (8) 自分たちでよく考え、挑戦し、成就感を味わう活動内容と評価…自分を律することができる子の育成
- (9) 命と健康を最優先に考え、安心安全な学校づくりの推進…体力、運動能力の向上

基盤となる学校の構え

危機意識を持ち、丁寧で組織的な生徒指導の充実に努める（学年主任会との連携）

- ・安定している今だからこそ改善。特に小さな兆候を見逃さない体制を目指す。
- ・全職員で、全校児童を育てる意識をもつ。「初動が遅い、見届けが甘い、継続性が弱い」指導から脱却する。

人的資源と節目を活用し、適応できない児童に対する教育相談体制の充実に努める（学年主任会との連携）

- ・定期的な調査や個別支援会議と日常的な教育相談で、児童や保護者の「不安・不満・不信」をキャッチする。
- ・教育相談担当を中心に、SC、S相、SSW、指導助手、外部機関と連携し、組織的、継続的な指導を行う。

家庭や地域社会を巻き込み、心を育てる教育の充実に努める

- ・家庭や地域と一緒にいるあいつ活動と学校運営協議会と連携した教育活動を推進する。
- ・家庭、地域への情報発信を積極的に行う。

安心安全で、明るく元気に過ごせる校内環境づくりを児童とともに進める

- ・安心安全な学校づくりを目指し、児童とともに「安全な行動」「思いやりに欠ける言動ゼロ」を目指す。

そこには「教育の原点がある」という認識をもって特別支援教育の充実に努める

- ・個別のニーズを有する児童の指導について、学校全体で取り組む体制をつくる。

学校アンケートを活用し、学校運営の改善と信頼される開かれた学校づくりを推進する

- ・自校評価や子どもアンケートなどを踏まえ、学校運営の改善について具体策を策定していく。
- ・従前や慣例と変える勇気を持ち合わせ、実施する努力を惜しまない。「できない」ではなく「できる方法はないか」